

日本語学校と地域社会との協働

～中野「なでしこ会」を例として～

嶋田 和子

アクラス日本語教育研究所

kazushimda@acras.jp

はじめに……

地域との連携・協働を
大切に続ける。

◆中野区での活動

* 1990年～2012年

イーストウエスト日本語学校<EW>(中央2丁目)

* 2012年～

アクラス日本語教育研究所(中野2丁目)

今でも、EWと
ともに活動。

たくさんの「協働」がありますが……。

地域社会との協働

授業外の例

◆留学生の地域でのボランティア活動

- * 子ども食堂手伝い
- * 「なでしこ会」での布巾づくり
- * 金曜ボランティア（中野区国際交流協会）
等

授業での例

▲ 俳句づくり→句会→校内俳句コンテスト
地元の方による選句&やり取り

▲ ビジターセッション
等

なでしこ会とは

2007年活動スタート ※2008年 中野「まちなかサロン」登録

70歳～95歳(平均年齢85歳)の女性 ※2022.12現在

毎週集まって、布巾やランチョンマット、バッグを作成。作品を販売し、その収益を地域社会の団体に寄付。

EWに寄付
したいんです
が……。

「協働」が生ま
れることを始め
たい。



- * 「なでしこ作文コンテスト」を創設
- * 留学生が布巾づくりボランティアに参加等



大切にしたこと

協働

- ◆（両方にとって）エンパワメントにつながることをする。
- ◆（両方にとって）社会貢献につながることをする。
- ◆ 継続性のあるものにする。

布巾づくり

みんなで縫った布巾が売れて寄付できるのが嬉しくて……。みんなが自分のホントの孫みたいに私をかわいがってくださるので、韓国に居るおばあさんを思い出します。小学校で美術を教えている母が、布巾のデザインをたくさん送ってくれました。

(2008.9)







EWの講師会で販売

なでしこ作文コンテスト



■毎年1～3月、作文コンテスト

最優秀賞1名、優秀賞2名



なでしこ会員に
とって、どんなこ
とが……

今83歳ですが、こんな舞台上に上
がるのは女学校以来です。嬉しく
て昨日はよく眠れませんでした。
生きる張り合いが出てきました。

(2009年3月)

社会とのつながりが「生きる力」に！

学校法人 国際青年交流学園
イーストウエスト日本語学校 卒業式



さまざまな「協働」において大切なこと

共創型対話

- ◆信頼関係を築く。
- ◆共通目標をつくり、それに向かう。

<その時には~~~~>

- ◆相手の立場に立って考えることを大切に！
- ◆お互いに認め合い、それぞれの強みを引き出すことを大切に！。

